



その場で揚げた天ぷらに、「衣がサクサクしていておいしい!」との声。

ニュース なたねプロジェクト、 2期目の活動始まる 食のみやぎ復興ネットワーク

みやぎ生協をはじめ200団体あまりで活動している「食のみやぎ復興ネットワーク」。その活動の一つである「なたねプロジェクト」は、津波で塩害を受けた農地で菜の花を育て、土壌の回復と地域産業の復興に寄与する取り組みで、今年で2期目を迎えます。5月15日には、第2回目の「菜の花を見る会」が催されました。

会場には、10の関連団体や近隣住民が集まり、3・8ヘクタールの畑に咲き乱れる菜の花を観賞しながら昨年



福井県民生協の全店舗で今年3月に供給された、「希望の なの花はちみつ飴」。

度の活動報告に耳を傾け、また採取した菜種油で揚げた天ぷらに舌鼓を打ちました。

報告では、「なたねプロジェクト」で開発された商品「希望の なの花はちみつ飴」が、コープ九州事業連合の一部の店舗や福井県民生協の全店舗、コープかごしまの宅配、京都生協「商品大交流会」の展示販売などで供給されていることなどが紹介されました。

菜の花の栽培を行なっている玉浦生産組合組合長の村上武志^{むらかみたけし}さんは、「菜の花を植えることで土壌がずいぶん回復してきたので、この地に来年は大豆など別の作物を植えることができたらよいなと思います」と取り組みの成果について話していました。

被災地からのメッセージ

全国の皆さまへ

いわて生協 被災地支援活動担当 ^{いづかいくこ} 飯塚郁子

日頃のご支援に感謝申し上げます。

2012年6月にいわて生協せんコープ組合員理事の任期終了と同時に被災地支援活動担当^{*}になりました。

現在の担当者は私ですが、多くの組合員リーダーや組合員ボランティアと共に忙しい日々を送っています。

発災から3年目を迎え、少しずつ復旧しているところはあるものの、やはり復興には程遠いのが現状です。日々のくらしから税金、医療までとにかくたくさんの方がいます。

中でも被災された方の心のケアは大切です。仮設住宅から出て行けない人たちが不安を募らせる一方で、せつかく



新築のおうちに引っ越したのに、これまで一緒に住んでいなかった子どもの家族との同居で気兼ねして寂しい思いをされているお年寄りも多いのです。こういう方たちを仮設住宅の集会所のお茶っこ会にお招きして、お茶やお菓子をいただきながらいろんな話をゆっくりお聴きすることは、これからはもっと重要になります。「ウチは寒くて寂しいから」と、新築のおうちからお茶っこ会に参加するために、仮設住宅の集会所を訪れる方もいらっしゃいます。

現在も全国の生協の皆さまからお菓子や募金を送っていただいておりますが、これからもお茶っこ会継続のためのご支援をぜひお願いしたいと思っております。

^{*}復興に向けた組合員活動をサポート。地域の会議への出席や、生協のお茶っこ会の訪問と現地事務局など活動は多様。また、今後大規模災害が万が一起こったときの備えとして、現地の課題と支援活動担当としての対応について週単位で詳しく記録し、いわて生協本部に提出している。

メッセージ全文は、日本生協連「復興支援ポータルサイト」内、「つながろうCO-OPアクション情報」ボタンをクリックし、ご覧いただけます。「日本生協連 復興支援ポータルサイト」でインターネット検索を。